

岩手県県南地域における「南いわて食産業クラスター形成ネットワーク」の設立

～岩手県県南広域振興局の取り組み～

1 岩手県県南広域振興局の取り組み

岩手県県南広域振興局とは、昨年度、岩手大学、一関市とともに、桑クラスター懇話会を設立して、岩手県県南地域における桑クラスター形成の取り組みを支援してきた。このたび、それらの取り組みも内包し、県南地域における食産業振興を図るために「南いわて食産業クラスター形成ネットワーク」が設立されることになり、その設立総会に社団法人食品需給研究センターも参加してきた。

1.1. 食産業振興戦略の策定

岩手県では、県内に4つの広域振興圏を置き、広域振興圏ごとに産業振興を図ろうとしている。その動きの先駆けとして、2006年4月より県南地域には県南広域振興局が設置されている。そして、2006年12月に、県南広域振興圏産業振興戦略の一環として食産業振興戦略が策定された。食産業振興戦略では、地域で産出される農産物が食品加工などの他産業にあまり生かされていないという現状に対し、地域全体として、農産物の付加価値を向上させるシステムが必要ということで、目指す姿に、産、学、官、金融が連携した食産業クラスターの形成を掲げている。4年後の数値目標として、食料品製造業出荷額を640億円から680億円へ、クラスター参画数を30法人等から100法人等への増加を掲げている。

施策の方向性として、①南いわて食産業クラスター形成ネットワーク、②食材取引の促進、③意欲ある食品企業等の伸長の加速化、④新産業創出の促進の4点を示めし、食産業クラスター形成を食産業振興戦略の中心に据えている。県南広域振興局長 酒井 俊巳氏の話では、この中で示した食産業プロデューサー（仮称）の設置は6月の補正予算に提案しているもので、技術開発とマーケティングの両方のコーディネートができる人材を県職員として外部登用しようという施策だそうである。食産業プロデューサー（仮称）を中心に県南広域振興圏の食産業クラスターの形成を推進していこうという戦略である。

2 南いわて食産業クラスターネットワーク

2.1. 南いわて食産業クラスターネットワークの設立

県南地域における食産業の一層の活性化、集積の促進を図るため、新たな連携活動のプラットフォーム（推進基盤）として、「南いわて食産業クラスター形成ネットワーク」を設置する運びとなり、2007年6月19日に設立総会が開かれた。食品関連企業、商工団体、農業団体、

大学等、金融機関、行政から約130名の参加者が集まり、代表として発起人代表であった中村好雄 北上商工会議所会頭（株式会社アジテック 代表取締役社長）、副代表として石川和宣 有限会社一関ミート代表取締役が選出された。事務局は県南広域振興局に置かれ、会員から選出する11名の運営委員会によって運営される。現在の会員数は87機関で、内訳は、食品企業35社、農業生産法人等11法人、商工団体10団体、農業団体8団体、学術研究機関2機関、金融機関10機関、行政等11機関である。

県南広域振興圏食産業振興戦略における施策の方向性

①南いわて食産業クラスター形成ネットワーク
・食産業プロデューサー（仮称）の設置 ・産学官金融による連携活動の推進体制の構築
②食材取引の促進
・県南広域振興局内に県産食材相談窓口の設置 ・農業と食品企業等とのマッチング
③意欲ある食品企業等の伸長の加速化
・食品企業の新製品開発、経営革新、販路開拓の支援 ・農業生産法人・JAなどのマーケットインの取り組み支援
④新産業創出の促進
・地域シーズ（雑穀、カシス、桑など）を核として、産業規模のスケールアップを図るため、シナジー効果を発揮しようとする取り組みを支援



南いわて食産業クラスター形成ネットワーク設立総会
 （於、岩手県奥州市 プラザイン水沢）

2.2. 南いわて食クラネットの目的と平成 19 年度の事業計画

南いわて食クラネット（総会でこの略称にすることに決定）は目的として、「岩手県県南地域（花巻市・遠野市・北上市・西和賀町・奥州市・金ヶ崎町・一関市・平泉市・藤沢町）を中心として、産学官金連携による食産業クラスターの形成を目指し、地域の農産物の高付加価値化を図るとともに、新製品や新規事業の創出などを促進し、食産業全体の活性化や産業競争力の強化などに資すること」を掲げており、農林水産省が推進している食料産業クラスターの取組みにも合致している。県単位よりも小さい規模でも、情報連携を進めようという試みである。

平成 19 年度の事業計画としては、①産学官金連携による食産業クラスターの形成に関する事業、②地域食材等の利用促進に関する事業、③地域食材等を活用した製品開発、販路開拓及びブランド形成等に関する事業、④特定シーズを活用した新産業創出に関する事業、⑤食関連の情報収集及び連絡調整に関する事業を実施している。

また、クラスターの核となるプロジェクトを展開するため、新製品の開発や販路開拓などに関する研究会活動を促進するとし、想定されるプロジェクトのテーマとして、①雑穀を核とした産業集積の拡大、②山菜資源を活用した地域産業の活性化、③食と観光の連携のモデル的展開、④桑を活用した産業集積の加速化、⑤特産品づくりの拡大、⑥マーケットイン型の産地形成、⑦産直施設間のボランタリーチェーン展開、⑧資源循環・食品リサイクルの促進、⑨物流連携による市場・販路開拓の 9 点を挙げている。

南いわて食産業クラスター形成ネットワークの平成 19 年度事業計画

①産学官金連携による食産業クラスターの形成に関する事業
・ 総会の開催 ・ 運営委員会の開催
②地域食材等の利用促進に関する事業
・ 地域食材のマッチングに関する交流会 ・ 食材取引のための人材養成講座
③地域食材等を活用した製品開発、販路開拓及びブランド形成等に関する事業
・ 売れる商品づくり相談会・商談会 ・ マーケットイン発想による産地育成研修
④特定シーズを活用した新産業創出に関する事業
・ 雑穀、山菜、地ビールなどを核とした産業展開
⑤食関連の情報収集及び連絡調整に関する事業
・ 会員への電子メールなどを活用した情報提供など



発起人代表挨拶をする中村好雄 北上商工会議所会頭



挨拶をする酒井俊巳 県南広域振興局長

3 今後の展開

岩手県県南地域における食料産業クラスター形成の現状は、食産業振興戦略を策定したことによって目指すべき姿が描かれ、南いわて食クラネットという連携活動を行うためのプラットフォームが形成された段階である。今後は、このプラットフォームを活用して、どれだけ多くの食品企業、農業者、研究者等が、先に挙げたような様々なプロジェクトを展開していけるかにかかっている。

（文：社団法人食品需給研究センター 藤科 智海）